

建築家から見た ヨドコウ迎賓館

第一回

武庫川女子大学 講師
天畠 秀秋 様

今号からヨドコウ迎賓館の新企画がスタート。
建築に関わる方々に、専門家の視点から
ヨドコウ迎賓館の魅力を語っていただきます。



2階応接室



フラットな天井と柱が額縁のように風景を切り取る(1階車寄せ)



芦屋の街を見通せる車寄せ南側



4階食堂からの風景



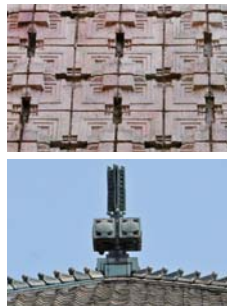
ヨドコウ迎賓館外観



武庫川女子大学 甲子園会館外観(兵庫県西宮市)



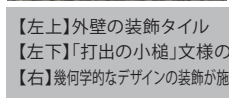
「打出の小槌」文様の蹲(1階ロビー)



【左上】外壁の装飾タイル



【左下】「打出の小槌」文様の棟飾りと緑釉瓦



【右】幾何学的なデザインの装飾が施された日華石の列柱(1階南側テラス)

甲子園会館

ライトの世界を体感できる貴重な住宅建築。



声：武庫川女子大学 生活環境学部 建築学科 講師
天畠 秀秋 様

京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻修士課程修了。武庫川学院管理部にて(武庫川女子大学 学術研究交流館)、「武庫川女子大学附属中学・高校 渡り廊下」などの教育研究施設の設計や2006年に開設した武庫川女子大学 建築学科および建築学専攻(大学院)の学舎として使用されている「甲子園会館」の改修計画を担当。現在は同学科講師として勤務。専門分野は建築計画学、建築設計。(級建築士免許所有)

ヨドコウ迎賓館に見る ライトの緻密な建築意匠。

フランク・ロイド・ライトが設計したヨドコウ迎賓館には、いくつもの大きな特徴があります。まず1つ目は、1階の車寄せとそのすぐ上の2階の応接室の構造とデザインの関係です。一般的にラーメン構造※1の建築物では、梁が床スラブの下に架かり天井に凹凸が生じるのが一般的です。しかし、ヨドコウ迎賓館の場合は2階の応接室側に梁が架かる逆梁であるため、車寄せの天井は完全にフラットになっています。一方、応接室では梁の上部に造り付けの長椅子を設置することで梁を隠しています。なぜライトはフラットな天井にこだわったのでしょうか。

その理由は「内部と外部の一体化」を重視した彼の建築思想にあると考えます。1階の車寄せはフラットな天井と柱に囲まれており、すっきりと周囲の景色が見通せます。つまり天井をフラットにすることで視線を外へへと導き、内にながら外との関係を意識させているのでしょう。ライトの代表作である「落水荘」(米国ペンシルベニア州)も同様に低く水平な天井をもち、大きなガラス窓から視線が外に向くように造られています。2つ目は、日本の茶室の「躰口(にじりぐち)」と、

よく似た空間構成です。茶室では限られた広さの空間をより広く感じさせるため、入口である「躰口」が非常に小さく造られています。ヨドコウ迎賓館でも1階の玄関から2階への階段の空間を意図的に狭くすることで、2階応接室の中に入ったときの空間の広がり演出しているのではないのでしょうか。

3つ目は「遮蔽縁(しゃへいえん)」※2を活かした空間構成です。これは隠れて見えない部分が移動することで見えるようになる構成で、室内に変化を与え空間体験をより豊かにする狙いがあります。ヨドコウ迎賓館の廊下も奥に何かがあると期待させる空間になっており、階段を上るに従い見える風景が変化し、歩いていて楽しい空間と言えます。これは日本の伝統建築や庭園にも見られる空間構成です。桂離宮や二条城二ノ丸御殿などの雁行型配置の建築や、石組みや木々が重ねて配置された日本庭園は歩いていくことでどんどん違う風景が展開していきますので、「遮蔽縁」を活かした空間は「日本的空間」と言えるでしょう。

「form and function are one」

(形態と機能は一つ)

ライトは構造デザイン・機能は全て一つであると考えていた。

ライトが提唱した有機的建築の一つの考え方だと言える。

随所に取り入れられ、遠藤独自の世界が表現されています。

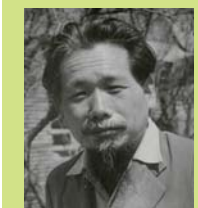
企業のバックアップは、 建築物を後世に遺す一つの方法。

フランク・ロイド・ライトの建築が、建設当時と同じ場所で保存され、専門家のみならず一般の人々に公開されていることは大変有意義なことです。文化的価値のある建築物を後世に遺す方法として、ヨドコウ迎賓館のような企業のバックアップは一つのモデルになるのではないかと思います。

また、甲子園会館のように学舎として使用しながら保存されるケースもありますが、大切なことは専門家以外の人々にもその建築の価値を広く知ってもらうことではないでしょうか。

特にヨドコウ迎賓館は、ライトの世界を体感できる貴重な住宅建築であることから、見学だけでなく「住む」ことを体験できる企画があればよいですね。パーティなどへ場所の提供を検討されるのも良いかと思います。

今後もヨドコウ迎賓館の一般公開を続けていただきたいと願っています。



遠藤新 (えんどうあらた)
【1889~1951】

福島県相馬郡福田村(現新地町)出身。東京帝国大学建築学科卒。ライトに学び数多くの優れた建築を設計。



※1 柱・梁を剛接合とした構造形式 ※2 奥の空間を隠している縁 ※3 緑色の釉薬がかけられた瓦